Office 評価ガイド

Office テレメトリ ダッシュボード

目次

[はじめに 5](#_Toc352156397)

[Office テレメトリ ダッシュボードの概要 6](#_Toc352156398)

[構成要素 6](#_Toc352156399)

[各要素の説明 7](#_Toc352156400)

[Office テレメトリ ダッシュボードの特徴 8](#_Toc352156401)

[移行支援 8](#_Toc352156402)

[モニタリング 10](#_Toc352156403)

[Office テレメトリ ダッシュボードのアーキテクチャと機能 11](#_Toc352156404)

[システム構成図 11](#_Toc352156405)

[Office テレメトリ ダッシュボードが扱う情報 12](#_Toc352156406)

[Office テレメトリ ダッシュボードの推奨利用シナリオ 13](#_Toc352156407)

[クラウドモデルでの事前検証 15](#_Toc352156408)

[移行後のモニタリング 16](#_Toc352156409)

[Office テレメトリ ダッシュボードの設定 17](#_Toc352156410)

[システム要件 17](#_Toc352156411)

[利用環境の設定手順 19](#_Toc352156412)

[Office テレメトリ ダッシュボードの構築 19](#_Toc352156413)

[Office テレメトリ エージェントの展開 38](#_Toc352156414)

[データ収集を手動で実行 44](#_Toc352156415)

[Office テレメトリ ダッシュボードの利用方法 45](#_Toc352156416)

[Office テレメトリ ダッシュボードの利用 46](#_Toc352156417)

[Office テレメトリ ダッシュボードのワークシート 46](#_Toc352156418)

[Office テレメトリ ダッシュボードの利用例 52](#_Toc352156419)

[Office テレメトリ ログの利用 61](#_Toc352156420)

[テレメトリ ダッシュボード管理ツールの利用 64](#_Toc352156421)

[まとめ 65](#_Toc352156422)

本資料で使用する製品の名称と略称を記述します。

* Microsoft Access 2013 (Access 2013)
* Microsoft Excel 2013 (Excel 2013)
* Microsoft InfoPath 2013 (InfoPath 2013)
* Microsoft OneNote 2013 (OneNote 2013)
* Microsoft Outlook 2013 (Outlook 2013)
* Microsoft PowerPoint 2013 (PowerPoint 2013)
* Microsoft Publisher 2013 (Publisher 2013)
* Microsoft Visio 2013 (Visio 2013)
* Microsoft Word 2013 (Word 2013)
* Microsoft Office 2010 (Office 2010)
* Microsoft Office 2007 (Office 2007)
* Microsoft Office 2003 Editions (Office 2003)
* Microsoft Office XP Edition (Office XP)
* Microsoft Office 2000 Editions (Office 2000)
* Microsoft Office 97 Editions (Office 97)
* Visual Basic for Application (VBA)
* Microsoft System Center Configuration Manager 2007 R3 (SCCM 2007 R3)
* Microsoft Windows Server Update Services 3.0 Service Pack 2 (WSUS 3.0 SP 2)
* Volume Activation Management Tool 2.0 (VAMT 2.0)
* Microsoft Silverlight (Silverlight)
* Microsoft Exchange Server (Exchange Server)
* Microsoft Office 365 (Office 365)
* Microsoft Visual Studio(Visual Studio)
* Microsoft Windows Azure Platform (Windows Azure)
* Microsoft Application Virtualization 4.6 (App-V 4.6)
* Microsoft Windows 8 (Windows 8)
* Microsoft Windows 7 (Windows 7)
* Microsoft Windows Vista (Windows Vista)
* Microsoft Windows XP (Windows XP)

著作権

このドキュメントに記載されている情報 （URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む）は、将来予告なしに変更することがあります。別途記載されていない場合、このソフトウェアおよび関連するドキュメントで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メールアドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などの名称は架空のものです。実在する名称とは一切関係ありません。お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用を願います。マイクロソフトは、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、著作権、またはその他の無体財産権を有する場合があります。別途マイクロソフトのライセンス契約上に明示の規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の無体財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

© 2012 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Windows 8、Windows 7、Excel、Word、Outlook、Project、SharePoint、Exchange、Office 365、Office Web Apps、Visual Studio、Silverlight、Windows Azure、Bing Maps、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。

記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。

# はじめに

新しい Office には、Office テレメトリ ダッシュボードと呼ばれる新しい互換性検証機能が導入されています。この機能は、Office 2010 の互換性ツールであるOffice Migration Planning Manager (OMPM)、Office Code Compatibility Inspector (OCCI)、およびOffice Environment Assessment Tool (OEAT) に代わるものです。Office テレメトリ ダッシュボードを使用すると、移行計画および互換性評価に要する全体的な時間の削減が可能になり、Office の展開時間を短縮できます。また、移行後もモニタリングを続けることにより、将来にわたってIT 運用コストの削減、その次のOffice への移行費用の削減も期待できます。

本ドキュメントは、組織の中で、Office を利用したクライアント端末の環境を管理しているIT 担当者が、今後、新しい Office を導入・展開して頂く際に参考にしていただけるドキュメントです。Office テレメトリ ダッシュボードの概要や推奨利用シナリオ、実際に利用する際の手順を、以下の流れで説明しています。

* Office テレメトリ ダッシュボードの概要

Office テレメトリ ダッシュボードを構成している要素について、基礎知識の習得を行います。

* Office テレメトリ ダッシュボードの特徴

Office テレメトリ ダッシュボードの特徴である移行支援やモニタリングについて、説明します。

* Office テレメトリ ダッシュボードのアーキテクチャと機能

Office テレメトリ ダッシュボードの構成や扱う情報について、図を用いて説明します。

* Office テレメトリ ダッシュボードの推奨利用シナリオ

Office テレメトリ ダッシュボードを利用する際の推奨シナリオを紹介します。

* Office テレメトリ ダッシュボードの設定

実際に、Office テレメトリ ダッシュボードを動作させるために必要な設定方法を習得します。

* Office テレメトリ ダッシュボードの利用

実際に、Office テレメトリ ダッシュボードの利用方法を習得します。

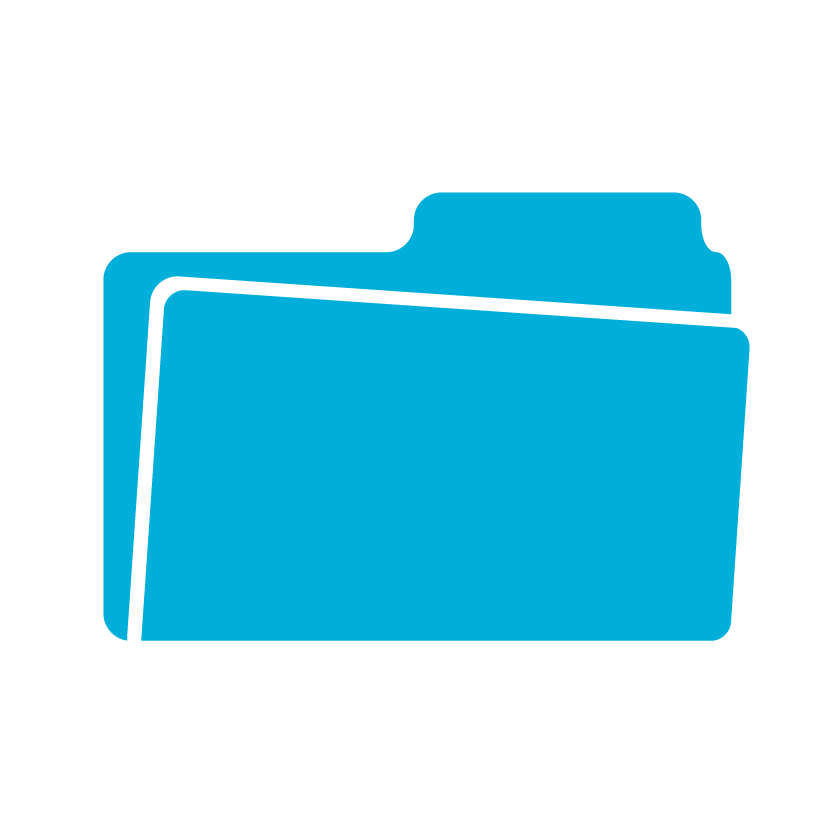
これらの Office テレメトリ ダッシュボードにおける基礎技術を習得し、Office のスムーズな導入を行うために、本ドキュメントを参考資料としてご利用ください。

# Office テレメトリ ダッシュボードの概要

Office テレメトリ ダッシュボードは、Office の移行を支援するOffice の新機能です。ここでは、その概要を以下のポイントで説明します。

* 構成要素
* 各要素の説明

## 構成要素

****次の図は、Office テレメトリ ダッシュボードを構成する要素をまとめています。

Office テレメトリ

ダッシュボード

機能

アドオン

Office テレメトリ エージェント

ローカル データ ストア

Office テレメトリ ログ

収集タスク

Office テレメトリ エージェント

収集タスク

ローカル データ ストア



テレメトリ 共有

フォルダー



テレメトリ

データベース

管理者

遠隔測定サービス

クライアント



Office テレメトリ

プロセッサ

Office 2010 以前の

クライアント



新しい Office



## 各要素の説明

次の表は、Office テレメトリ ダッシュボードの要素について説明しています。

| 要素 | **説明** |
| --- | --- |
| Office テレメトリ エージェント | クライアント PC からインベントリ データ、利用状況データ、および Office のテレメトリ データ(互換性問題の情報) をローカル データ ストアに収集します。  Office 2003、Office 2007、Office 2010、および Office Professional Plus (Office 365 の一部として使用可能) が実行されているクライアントと、新しい Office が実行されているクライアントに展開します。新しい Office では既定でインストールされています。 |
| Office テレメトリ ログ | 新しい Office が実行されているクライアント PC からイベントやエラーを収集します。エラー内容の解説もしくは解決策を、Office テレメトリ ログを通じて確認します。  新しい Office では既定でインストールされています。 |
| テレメトリ 共有フォルダー | Office テレメトリ エージェントが、インベントリ データ、利用状況データ、およびテレメトリ データの収集ポイントとして使用します。 |
| Office テレメトリ プロセッサ | インベントリ データ、利用状況データ、およびテレメトリ データを、テレメトリ 共有フォルダーからテレメトリ データベースに定期的にインポートします。  1 台以上のサーバー上で実行されます。 |
| テレメトリ データベース | SQL Server データベース。このデータベースの特定のビューは Office テレメトリ ダッシュボードで収集されたデータのレポートを作成する際使用されます。SQL Server のサポート バージョンについては、本書記載のシステム要件で説明します。 |
| Office テレメトリ ダッシュボード | テレメトリ データベースに格納されている利用状況データ、インベントリ データ、およびテレメトリ データを表示します。  新しい Office のボリューム ライセンス版では既定でインストールされています。 |

# Office テレメトリ ダッシュボードの特徴

ここでは、Office テレメトリ ダッシュボードの特徴である移行支援やモニタリングについて、以下のポイントで説明します。

* 移行支援
* モニタリング

## 移行支援

Office に含まれるOffice テレメトリ ダッシュボードを利用することにより、これまでのOffice移行と比較して、IT 担当者やエンドユーザーの負荷軽減、期間短縮、検証精度向上が可能です。次の説明と図は、Office 2010 以前と新しい Office の移行プロセスを比較しています。

**Office 2010 以前の移行プロセス (従来の方法)**

1. 業務における Office ファイル毎の利用頻度を全社にアンケートすることで、移行対象の Office ファイルを決定する。
2. 検証仕様書を作成し、IT 部門が検証用 PC 上で検証を行う。
3. 問題の発生したファイルの改修が全て終了してから、新しい Office を全社に導入する。

**新しい Office の移行プロセス (クイック実行 + Office テレメトリ ダッシュボード)**

1. 現 Office 環境へ Office テレメトリ エージェント を導入し、Office ファイルの利用頻度調査を自動で行い、ビジネス上優先度の高いファイルを抽出する。
2. 一部ユーザーにクイック実行で新しい Office を配布し、①で抽出されたファイルを実利用することで互換性のエラーや問題状況のログを収集する。
3. ビジネス上優先度の高い必要最小限のファイルのみ改修した時点で、クイック実行により新しい Office を全社に導入する。

**参考**

クイック実行については、「 Office 評価ガイド インストールと展開」に説明が含まれていますので、そちらをご参照ください。Office テレメトリ ダッシュボードとクイック実行を利用した場合、以前より大幅な移行期間の圧縮が期待できますが、Office テレメトリ ダッシュボードのみの利用でも従来の移行プロセスの①、②の負荷が削減されるため、移行期間を短縮できます。また、クイック実行を利用しなくても、新しい Office の利用による互換性エラーや問題の収集・確認は可能です。

段階的に新バージョン

旧バージョン

**Office 2010以前の移行プロセス (従来の方法)**

**展開**

**互換性検証**

**互換性検証**

**展開**

イメージ作成

インストール

テスト

改修

検証と調査

インベントリ  
収集(手動)

**新しい Office の移行プロセス (クイック実行 + Office テレメトリ ダッシュボード)**

旧バージョン

**5**

**4**

**3**

**2**

**1**

一部 新バージョン

全社 新バージョン

改修

優先度の高い

ファイル実利用

ファイルの

利用状況分析

インス

トール

Office テレメトリ ダッシュボード

全社 クイック実行による配信

一部 クイック実行による配信

**Office テレメトリ ダッシュボードの活用による事前分析の強化と移行負荷軽減**

**1**

* インベントリ収集が自動化され、IT 部門/関連部門の**利用状況分析の負荷軽減**
* 組織内全てのファイル情報の収集、効率的な分析の実現により、**ビジネス上優先度の高いファイルの適切な抽出**と、**迅速な移行プラン策定**
* 新旧バージョン共存環境での**実利用に基づく分析による必要最低限の改修**

**2**

**3**

**新旧バージョンの共存による効率化された新たな移行モデルの導入**

**4**

* ビジネス上優先度の高いファイルのみ改修した時点で、 Office の展開を開始できることによる**移行期間短縮**
* 旧バージョンとの共存による**移行リスクの回避**と、**移行負荷軽減**

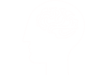
**5**

## モニタリング

Office に含まれるOffice テレメトリ ダッシュボードを移行後も利用することにより、IT 担当者の負荷軽減、リスク低減が期待できます。また、移行前の旧バージョンのみの環境をモニタリングしたい場合にも、ご利用いただけます。今後も予定される Office バージョンアップへの準備が整います。

**Office 2010 以前のモニタリング (従来の方法)**

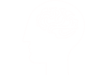
独自の管理



**？**

**？**

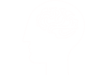
独自の管理



**？**

**？**

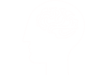
独自の管理



**？**

**？**

独自の管理



**？**

**？**



管理の自動化

**新しい Office のモニタリング (Office テレメトリ ダッシュボード)**

**1**

**2**

利用者の状況を監視

Office テレメトリ ダッシュボード

**移行前の環境整備と、移行後のOffice テレメトリ ダッシュボードの活用によるリスクや負荷軽減**

**1**

* 定期的に利用者の状況を監視することによる障害の早期発見など、**全体的なリスク軽減**
* 効率的な管理による**IT 担当者の負荷軽減**

**2**

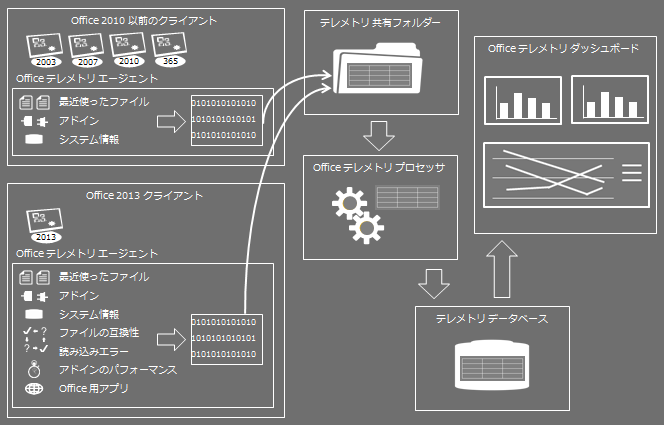
# Office テレメトリ ダッシュボードのアーキテクチャと機能

ここでは、Office テレメトリ ダッシュボードのアーキテクチャと機能について以下のポイントで説明します。

* システム構成図
* Office テレメトリ ダッシュボードが扱う情報

## システム構成図

Office テレメトリ ダッシュボード では、移行環境を準備するためのツール セットであるOMPM や、アドインやアプリケーションを検出するために、クライアントPC をスキャンする OEAT のような以前の互換性ツールとは異なる新しいアーキテクチャが使用されています。詳細については、次のシステム構成図をご覧ください。



## Office テレメトリ ダッシュボードが扱う情報

次の図は、Office テレメトリ ダッシュボードが記録する情報をまとめています。

**記録する情報**

システム 情報

インストール  
済みのアドイン

最近使用した

ファイル

実行時イベント

エラー情報

オブジェクトモデル

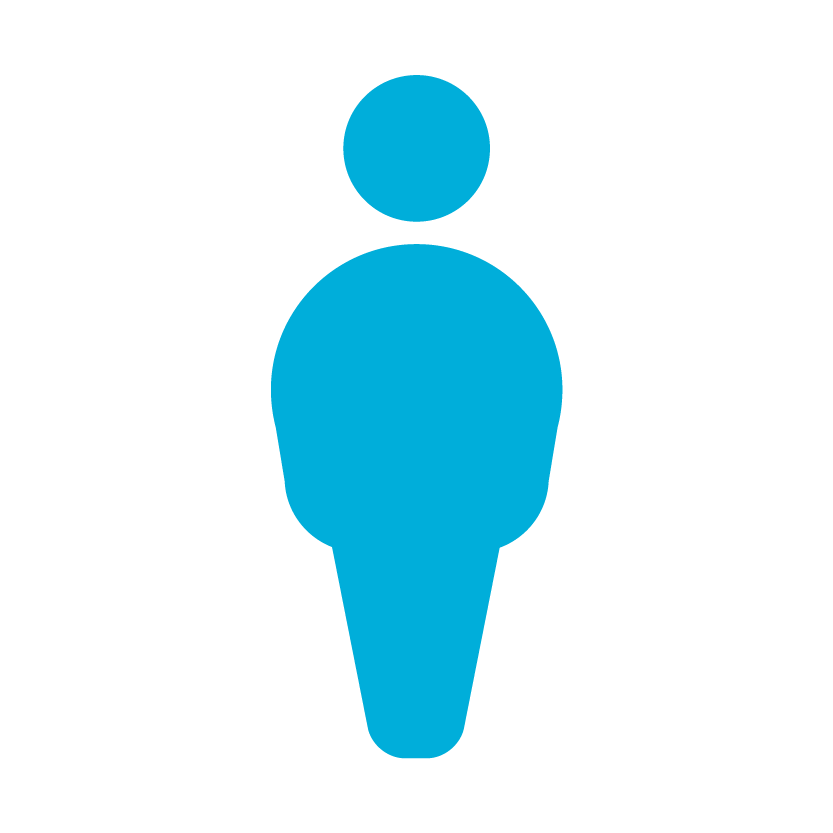
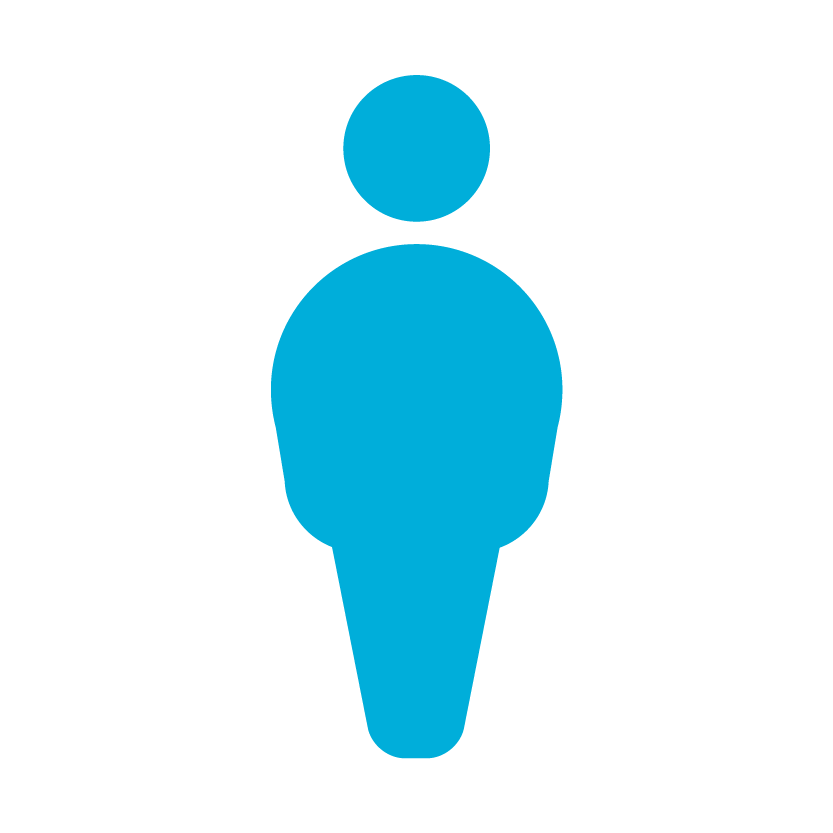
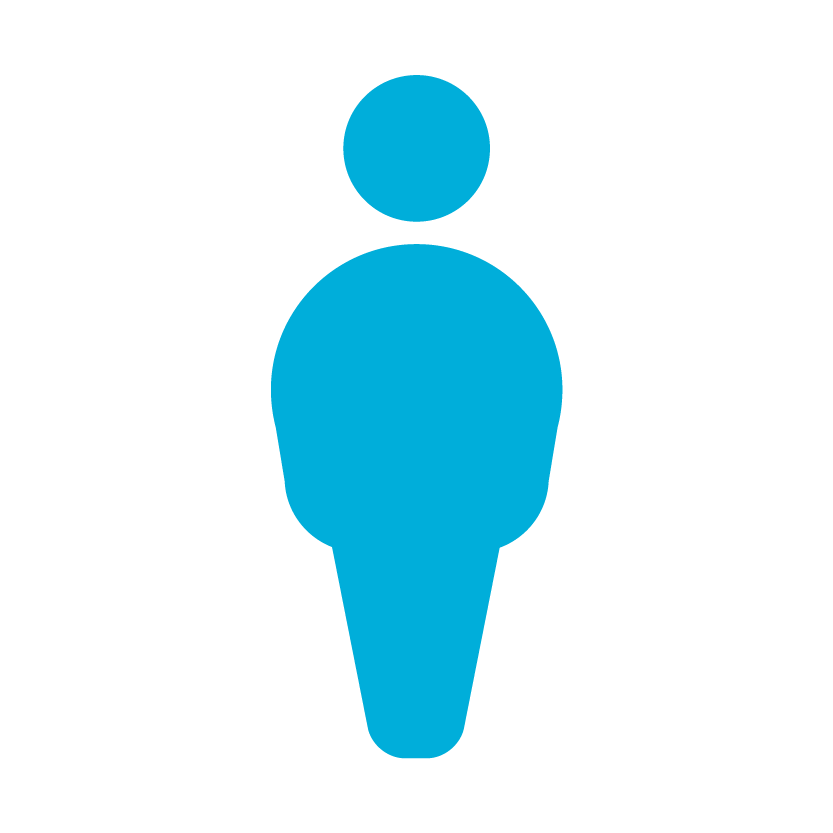
変更

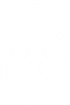
Office アプリ

新しい Office のみ

次の図は、Office テレメトリ ダッシュボードが提供する情報をまとめています。

Office テレメトリ ダッシュボード





アドインの影響



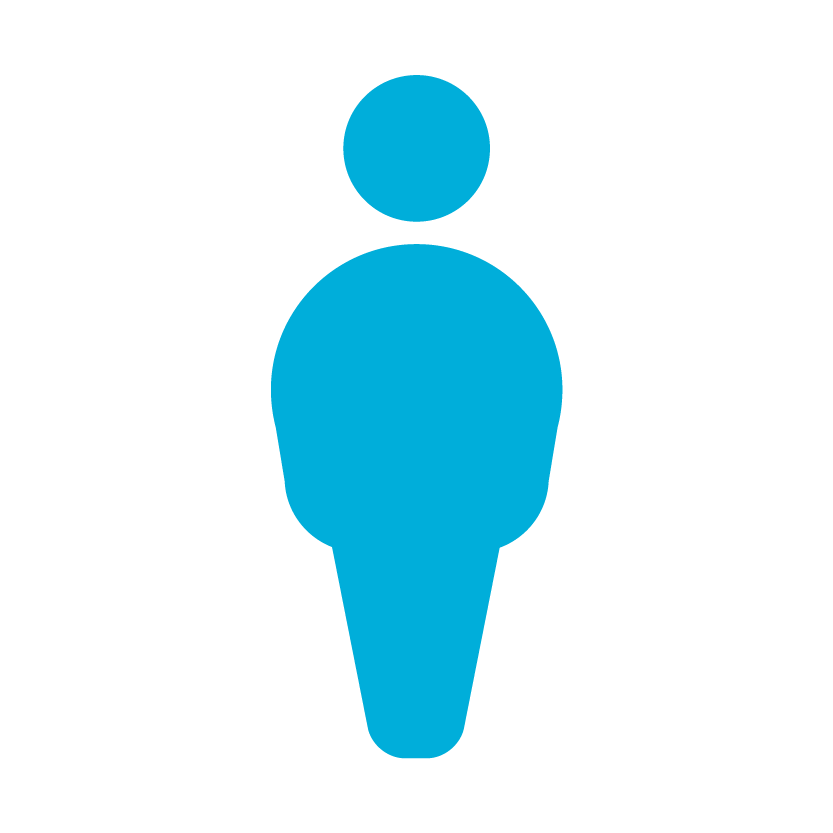
安定性

チームへの影響



Office 用アプリ

カスタム レポート



全ユーザーにとって

の問題

使用されたファイル

展開

読み込まれた

アドイン

エラーの原因

# Office テレメトリ ダッシュボードの推奨利用シナリオ

ここでは、推奨利用シナリオを以下のポイントで紹介します。

* クラウドモデルでの事前検証
* 移行後のモニタリング

次の表では、IT 担当者の課題と共に、推奨利用シナリオをまとめています。各シナリオの具体的な利用例は、P.52 から始まる Office テレメトリ ダッシュボードの利用例 をご確認ください。

クイック実行を選択されたお客様は、クラウドモデルも利用でき、更なる利点を得られます。

| **No** | **推奨利用シナリオ** | **課題** | **説明** |
| --- | --- | --- | --- |
| 1 | クラウドモデルでの事前検証  ※クイック実行 | 移行ツールや標準手順がない  例：移行の標準的な手順がわからない。 例：インベントリ収集・検証のための効率的なツールがないため、不必要なファイルの抽出や、検証すべきファイルの漏れが発生する。 | Office テレメトリ ダッシュボードを使用することにより、インベントリ収集が自動化され、IT 部門/関連部門の利用状況分析の負荷軽減ができ、互換性検証作業の期間短縮が実現できます。  また、利用実態を基に抽出することにより、ビジネス上優先度が高いファイルを適切に抽出できます。  効率的な分析の実現により、的確な改修対象の見極めが可能です。 |
| Office 切替えまでの期間が長過ぎる  例：ファイルの検証や改修が完了するまで Office の展開を開始できない。 | クイック実行により、新旧 Office が共存可能となるため、新しい Office の利用時に発生したエラーや問題について改修している間は、旧バージョンの Office を利用して運用を継続できます。したがって、ビジネス上優先度の高い必要最小限のファイルのみ改修した時点で、 Office の展開を開始できます。 |
| 2 | 移行後のモニタリング | Office のエラーや問題が起こったとき、対応に時間がかかる  例：Office の問題発見や、問題の情報・原因を独力で調査するので、ユーザーへの影響拡大や、管理者の対応コストが増大する。  例：アドインのエラー・問題が発生してもその検出や対応ができない。 | 移行後も Office テレメトリ ダッシュボードを使用することにより、問題を早期発見し、即時対応が可能です。問題の情報はリンク先から取得できます。スムーズな運用が実現し、運用コストやリスクも軽減します。  アドインのエラー・問題を自動検出でき、アドインを制御するスクリプトも自動生成できます。アドインの管理・統制が容易になります。 |
| Office のエラーや問題の発見が遅れる  例：新たなエラーや問題が起こった時に、どのように対応したらよいかわからないユーザーがいた場合、解決に時間がかかる。 | ユーザーが、新しい Office 利用時に新たな問題が起こったため旧 Office を利用していたとすると、Office テレメトリ ダッシュボードで監視していたIT 管理者は、旧 Office利用により、何か問題があったことを確認できます。そのため、未検知の問題を早期発見することができます。  また、問題の解決してないファイルの新しい Office での使用抑制と、改修完了に気づいてないユーザーへの通知も可能になります。 |

**参考**

各推奨利用シナリオをご利用頂くために必要なご契約形態については、今後アップデート追記いたします。

## クラウドモデルでの事前検証

クイック実行による Office の導入を Office テレメトリ ダッシュボードが支援することで、従来とは大きく異なる、まったく新しい展開プロセスによる Office 展開が実現可能となります。

インス

トール

**展開**

改修

**互換性検証**

一部 新バージョン

全社 新バージョン

Office テレメトリ ダッシュボード

ファイルの

利用状況分析

優先度の高い

ファイル実利用

旧バージョン

全社 クイック実行による配信

一部 クイック実行による配信

1. クイック実行により、全社に新しい Office を配布します。
2. 問題があるファイルの対応方針を検討します。Office テレメトリ ダッシュボードでは、エラーに関連した技術情報を参照でき、検討のための情報収集が容易です。
3. 検討した結果、改修対象になったファイルを改修します。
4. 先行プロセスの成果として抽出できた優先度の高いファイルを利用しているユーザーから代表的な一部のユーザーを選び、新しい Office を配布します。
5. 新しい Office にて、優先度の高いファイルを実利用することで、検証を行います。問題が発生した場合は、旧 Office を利用できるので、業務が停止しません。
6. Office テレメトリ ダッシュボードにて、新しい Office の利用中に発生した互換性のエラーや問題状況を IT 管理者が集中的に確認します。
7. 社内の全コンピューターを対象に、Office テレメトリ ダッシュボードのエージェント（Office テレメトリ エージェント）を配布します。
8. エージェント配布後、旧 Office にて実際の運用環境下で Office を利用し、インベントリを収集します。業務を網羅するため、最低でも1か月程度収集を続けます。
9. 収集したインベントリ情報を元に、Office テレメトリ ダッシュボード上でファイルの利用状況や利用頻度、アプリケーション別の利用分布などを分析します。
10. 分析結果を元に、先んじて検証が必要となるビジネス上優先度の高いファイルを見極めます。次のプロセスでは、これらのファイルを対象に検証を実施します。

**展開**

**互換性検証**

**互換性検証**

**互換性検証**

**注意**

互換性問題の心配がない場合は、改修計画や改修のステップをスキップしても、新しい Office の導入は可能です。

展開

改修

優先度の高い

ファイル実利用

ファイルの

利用状況分析

## 移行後のモニタリング

Office テレメトリ ダッシュボードを利用して、展開前の環境整備と、展開後の障害の早期発見等リスク回避、運用負荷を軽減する推奨利用シナリオを記載します。



管理の自動化

利用者の状況を監視

Office テレメトリ ダッシュボード

1. Office テレメトリ ダッシュボードを利用して、アドインの有効化や無効化を制御するグループポリシーを適用するためのスクリプトを生成します。
2. 生成したスクリプトを Active Directory 上で実行します。

アドイン管理

1. IT 担当者がOffice テレメトリ ダッシュボードで定期的に利用者の状況を監視します。
2. アドインのエラー・問題を自動検知した場合、エラー・問題情報から技術情報へアクセスします。

利用者状況監視

# Office テレメトリ ダッシュボードの設定

ここでは、Office テレメトリ ダッシュボードを動作させるために必要な設定を以下のポイントで説明します。

* システム要件
* 利用環境の設定手順

## システム要件

Office テレメトリ ダッシュボードを動作させるには、次の図に示す4 つの PC / サーバー環境が必要です。

**A**　Office 2010 以前の

クライアント

**B**　DB サーバー

**C**　Office 2013

クライアント　※

**D**　AD サーバー

* Office Professional Plus 2013 / Office 365 Pro Plus が使用可能です

1. Office 2010 以前のクライアント

Office 2010 以前の情報を収集するための環境です。

PC 台数：任意

Office テレメトリ エージェントを実行するためのWindows のバージョンは、以下になります。

* Windows XP 以降

**参考**

上記記載の Office 2010 以前のPC 台数は、台数が多いほどデータが多く集まります。また、実業務で使用しているPC を対象とすることを推奨します。

1. DB サーバー

　Office テレメトリ プロセッサ とSQL Server を導入するDB サーバー環境です。

サーバー台数：1 台

Office テレメトリ プロセッサを実行するためのWindows のバージョンは、以下になります。

* Windows Server 2008 以降

SQL Server のバージョンは以下になります。

* SQL Server 2005以降 (Express Edition を含む)

1. 新しい Office クライアント

Office テレメトリ ダッシュボードの利用や、新しい Office 上でファイルやソリューションを検証するための環境です。

PC 台数：①のPC 台数の2 ～ 5 ％

Office を導入するためのWindows のバージョンは、以下になります。

* Windows 7 以降
* Windows Server 2008 以降

**参考**

上記記載の新しい Office 上で検証するためのPC 台数は、あくまで目安であり、検証では検証用PC 1、2 台でもOffice テレメトリ ダッシュボードはご利用頂けます。

1. AD サーバー（※推奨）

　※ Active Directory ドメインとの連携が可能のため、ドメイン環境下での利用を推奨します。

サーバー台数：1 台

**参考**

ドメイン環境を使用せず、WORKGROUPで環境構築する場合、URL (<http://gallery.technet.microsoft.com/Setting-up-Office-1749df3b>) のパッチをご利用ください。

## 利用環境の設定手順

Office テレメトリ ダッシュボードを利用するためのサーバー構築手順と、Office テレメトリ エージェントの設定手順を説明します。

### Office テレメトリ ダッシュボードの構築

Office テレメトリ ダッシュボードを構築するには、事前に SQL Server を展開しておく必要があります。

|  |
| --- |
| ステップ1 ：Office のインストール |
| ステップ2 ：SQL Server 2012 のインストール |
| ステップ3 ：Office テレメトリ プロセッサ のインストール |
| ステップ4 ：テレメトリ データベースに接続 |

初めに、新しい Office を導入したクライアントPC を用意します。

次に、DB サーバーにSQL Server 、Office テレメトリ プロセッサの順でインストールします。最後に、テレメトリ ダッシュボードより、DB サーバーのテレメトリ データベースに接続できることを確認します。

**注意**

今回の手順では、新しい Office 導入用はWindows 8、サーバー環境はWindows Server 2012 64bit、SQL Server 2012 Express を用いて説明しています。また、ドメイン環境を利用した手順になります。

Windows Server 2008 にSQL Server 2012 Express をインストールする場合は、Windows Server 2008 にService Pack 1 がインストールされている必要があります。

|  |  |
| --- | --- |
| **ステップ1 ：Office のインストール** | |
| 1 | この手順からは、こちらの PC ／サーバーが対象です  **A**　Office 2010 以前の  クライアント  **D**　AD サーバー  **B**　DB サーバー  **C**　Office 2013  クライアント  Windows 8 が導入されたPC を準備します。 |
| 2 | Office をインストールします。 |

ステップ2 より先の手順は、ドメイン参加しているユーザーで行ってください。

|  |  |
| --- | --- |
| **ステップ2 ：SQL Server 2012 のインストール** | |
| 1 | [Office 2013 テレメトリ ダッシュボード] を起動します。 |
| 2 | [スタート] ワークシートの [① セットアップの前提条件] を展開し、[Microsoft SQL Server Express Edition のダウンロードとインストール] リンクをクリックします。 |
| 3 | Microsoft Download Center が表示されるので、[JPN\64\SQLEXPRWT\_x64\_JPN.exe] の [ダウンロード] をクリックします。    **参考**  SQL Server のダウンロードは、URL (<http://go.microsoft.com/fwlink/p/?LinkId=246610>) を直接指定しても行えます。 |
| 4 | この手順からは、こちらの PC ／サーバーが対象です  **A**　Office 2010 以前の  クライアント  **B**　DB サーバー  **C**　Office 2013  クライアント  **D**　AD サーバー  .NET Framework 3.5 をインストールします。インストール済みの場合は、手順 10へ進みます。  [スタート] - [管理ツール] - [サーバーマネージャー] - [役割と機能の追加] より、[役割と機能の追加ウィザード] が表示されるので、[サーバーの選択] をクリックします。 |
| 5 | 対象サーバーを確認し、[機能] をクリックします。 |
| 6 | [.NET Framework 3.5 Features] にチェックを入れ、[次へ] をクリックします。 |
| 7 | [代替ソース パスを指定する必要がありますか？] が表示された場合は、[代替ソース パスの指定] をクリックします。 |
| 8 | Windows Server 2012 インストール メディアをセットして、.NET Framework 3.5 機能のソース ファイルのパスを指定し、[OK] をクリックします。  例　D:\sources\sxs |
| 9 | インストールが完了したら、[閉じる] をクリックします |
| 10 | 手順 3 よりダウンロードしたSQL Server のインストーラーを実行すると、[SQL Server インストール センター] が表示されます。[SQL Server の新規スタンドアロン インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加します] をクリックします。 |
| 11 | [製品の更新プログラム] ページで、インストールする製品を確認し、[次へ] をクリックします。 |
| 12 | SQL Server 2012 セットアップの [セットアップ サポート ルール] ページが表示され、自動的に次画面に移動します。ライセンス条項を確認して、[ライセンス条項に同意します。] にチェックを入れ、[次へ] をクリックします。 |
| 13 | [機能の選択] ページに自動的に遷移します。既定値のまま、[次へ] をクリックします。 |
| 14 | [インストール ルール] ページで [次へ] をクリックします。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 15 | [インスタンスの構成] ページで、[名前付きインスタンス] に “teledash” を入力し、[次へ] をクリックします。    **参考**  [名前付きインスタンス] の名前 (手順では、teledash) は、任意です。 |
| 16 | [サーバーの構成] ページで、[SQL Server Browser] の[スタートアップの種類] を [自動] に変更し、[次へ] をクリックします。 |
| 17 | [データベース エンジンの構成] ページで、既定のまま (Windows 認証モード)、[次へ] をクリックします。 |
| 18 | [エラー レポート] ページで、既定のまま、[次へ] をクリックします。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 19 | [完了] ページで [閉じる] をクリックします。 |

|  |  |
| --- | --- |
| ステップ3 ：Office テレメトリ プロセッサ のインストール | |
| 1 | この手順からは、こちらの PC ／サーバーが対象です  **A**　Office 2010 以前の  クライアント  **B**　DB サーバー  **C**　Office 2013  クライアント  **D**　AD サーバー  Office テレメトリ ダッシュボードを起動します。[スタート] ワークシートの [② テレメトリ プロセッサのインストール] で、[x64 版テレメトリ プロセッサ MSI を保存する] をクリックし、.msi ファイルを任意の場所に保存します。 |
| 2 | この手順からは、こちらの PC ／サーバーが対象です  **D**　AD サーバー  **C**　Office 2013  クライアント  **B**　DB サーバー  **A**　Office 2010 以前の  クライアント  保存した .msi ファイルを、サーバーで実行します。[Office テレメトリ プロセッサ] セットアップ ウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。 |
| 3 | [Office テレメトリ プロセッサ] セットアップ ウィザードで [完了] をクリックします。 |
| 4 | [作業の開始] ページで、[次へ] をクリックします。 |
| 5 | [SQL サーバー] のコンボボックスより、ステップ2 で設定したSQL Server インスタンスの名前 “(local)\TELEDASH” を選択し、[接続] をクリックします。 |
| 6 | [SQL データベース] に新しいデータベースの名前 “TELEDASH-DB” (任意) を入力し、[作成] をクリックします。 |
| 7 | [次へ] をクリックします。 |
| 8 | データベースの構成を開始するメッセージが表示されるので、[はい] をクリックします。 |
| 9 | [共有フォルダー] ページで、フォルダーのUNC パスを指定し、[次へ] をクリックします。フォルダーは、事前に作成しておきます。  例　C:\Inventry Data |
| 10 | 共有フォルダーに権限を設定するメッセージが表示されるので、[はい] をクリックします。 |
| 11 | [マイクロソフトのカスタマー エクスペリエンス向上プログラム] ページで、[次へ] をクリックします。 |
| 12 | [完了] をクリックしてウィザードを閉じます。 |

**注意**

データベースへのアクセス許可を他の管理者に付与するには、以下のスクリプト内容を .bat ファイルとして保存し、実行します。必要に応じて、server\instancename、databasename、および domain\grouporuser の各値を更新します。

osql.exe -E -S servername\instancename -d databasename -Q "CREATE LOGIN [domain\grouporuser] FROM WINDOWS"

osql.exe -E -S servername\instancename -d databasename -Q "CREATE USER [domain\grouporuser] FOR LOGIN [domain\grouporuser] WITH DEFAULT\_SCHEMA=[dbo]"

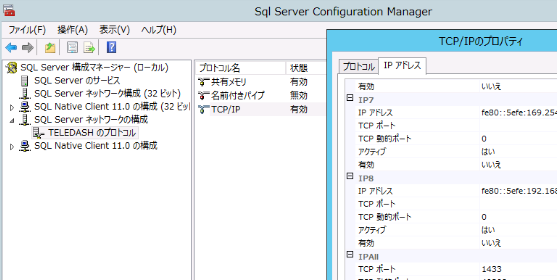
osql.exe -E -S servername\instancename -d databasename -Q "EXEC sp\_addrolemember 'td\_readonly', 'domain\grouporuser'"

|  |  |
| --- | --- |
| ステップ4 ：テレメトリ データベースに接続 | |
| 1 | この手順からは、こちらの PC ／サーバーが対象です  **D**　AD サーバー  **C**　Office 2013  クライアント  **B**　DB サーバー  **A**　Office 2010 以前の  クライアント  Office テレメトリ ダッシュボードの [スタート] ワークシートの [データベースへの接続] をクリックします。 |
| 2 | [SQL サーバー] と、ステップ 3 で指定した [SQL データベース] を入力し、[接続] をクリックします。 |

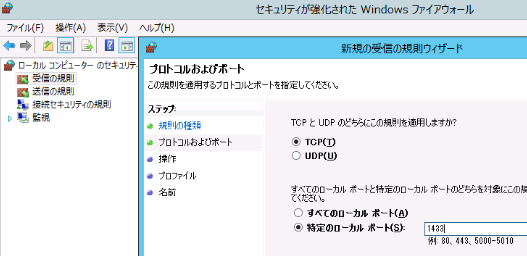
**参考**

データベースへ接続できない場合は、以下の設定を行います。

1. SQL Server 構成マネージャーの [SQL Server ネットワークの構成] の [TELEDASH のプロトコル] の [TCP/IP] を有効にする
2. [TCP/IP] プロパティの [IPALL] の [TCP ポート] を1433にする



1. [セキュリティが強化された Windows ファイアウォール]の[受信の規則]にTCP 1433 を追加する



|  |  |
| --- | --- |
| 3 | 6 種類の新しいワークシートがOffice テレメトリ ダッシュボードのブックに追加されます。 |

**参考**

ファイル名に個人情報や機密情報が入っていると、プライバシー上の問題を招く可能性があります。

以下のスクリプトを使用すると、使用しているユーザー数が 少ないファイル名をOffice テレメトリ ダッシュボード で非表示にすることができます。

SolutionFilterThreshold 値を0 から3 に変更することで、ユーザー数が2 以下のファイルを除外します。

osql.exe -E -S servername\instancename -d databasename -Q "update [ServerSettings] Set [IntValue] = 3 Where [Name] = 'SolutionFilterThreshold'"

### Office テレメトリ エージェントの展開

既定では、インベントリ データ、利用状況データ、およびテレメトリ データは、各クライアントでローカルに格納されます。Office テレメトリ ダッシュボードには送信されません。このデータをOffice テレメトリ ダッシュボードを使用して表示するには、各クライアントPC 上でOffice テレメトリ エージェントを構成し、テレメトリ 共有フォルダーの場所を指定する必要があります。

次の表に、Office テレメトリ エージェントが Office のさまざまなエディションおよびアプリケーションについて収集するデータの種類を示します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **利用状況データ、インベントリ データ、**  **およびテレメトリ データ** | **利用状況データおよびインベントリ データのみ** | |
| Word 2013  Excel 2013  PowerPoint 2013  Outlook 2013 | Access 2013  OneNote 2013  Project 2013  Publisher 2013  Visio 2013  InfoPath 2013 | Office 2003  Office 2007  Office 2010  Office Professional Plus (Office 365 の一部として使用可能) |

|  |
| --- |
| ステップ1 ：Office テレメトリ エージェントをクライアントに展開 |
| ステップ2 ：Office テレメトリ エージェントの有効化 |

ステップ1 でOffice テレメトリ エージェントを別個に展開する必要があるOffice のバージョンは、以下のとおりです。

* Office 2003
* Office 2007
* Office 2010
* Office Professional Plus (Office 365 の一部として使用可能)

ステップ2 のOffice テレメトリ エージェントの有効化は、全Office バージョンで必要です。

|  |  |
| --- | --- |
| ステップ1 ：Office テレメトリ エージェントをクライアントに展開 | |
| 1 | Office テレメトリ ダッシュボードの [スタート] ワークシートの [③ テレメトリ エージェントの展開] で、[x86 版テレメトリ エージェント MSI を保存する] リンク、もしくは [x64 Telemetry Agent MSI を保存する] リンクをクリックします。MSI ファイルを任意の場所に保存します。    **注意**  Office テレメトリ エージェントのx86 バージョンまたはx64 バージョンは、Office クライアントのアーキテクチャではなく、クライアントで実行されているWindows オペレーティング システムのアーキテクチャと一致するようにします。 |
| 2 | この手順からは、こちらの PC ／サーバーが対象です  **D**　AD サーバー  **C　Office 2013**  クライアント  **B**　DB サーバー  **A**　Office 2010 以前の  クライアント  MSI ファイルを監視対象のクライアント コンピューターに展開します。MSI パッケージは、MSI と一緒に/ quiet パラメーターを使用することによってサイレントに展開できます。  **参考**  グループ ポリシーを使用して、ユーザーのログオン スクリプトにコマンドを追加することにより、ユーザーがログオンしたときにMSI ファイルを自動的に展開させることができます。 |

Office テレメトリ エージェントを構成して有効にするには、グループ ポリシー テンプレート ファイルの.admx ファイルおよび.adml ファイルを使用します。これらのファイルを取得するは、Office テレメトリ ダッシュボードの [スタート] ワークシートの [④ Telemetry Agent の構成] で、[Office 2013 管理用テンプレート ファイルをダウンロードする] リンクをクリックします。



また、監視対象のクライアントごとにレジストリを編集することもできます。手順は、ステップ2 で説明しています。

レジストリでのみ構成できる設定がありますので、注意してください。

次の表に示すポリシー設定は、"ユーザーの構成\管理用テンプレート\Microsoft Office 2013\テレメトリ ダッシュボード" にあります。

| **設定** | **説明** |
| --- | --- |
| テレメトリ データの収集をオンにする | Office テレメトリ ダッシュボードをよびOffice テレメトリ ログ で使用するOffice のデータ コレクション機能を有効にします。データ コレクションは既定で無効です。 |
| テレメトリ エージェントのプライバシー設定をオンにする | Office テレメトリ エージェントを構成し、テレメトリ データに通知された特定のファイル プロパティを難読化します。このポリシー設定を有効にすると、Office テレメトリ エージェントは、テレメトリ データを共有フォルダーにアップロードする前にファイル名、ファイル パス、および Office ドキュメントのタイトルを難読化します。 |
| テレメトリ エージェントのデータのアップロードをオンにする | Office テレメトリ エージェントのデータのアップロード機能を有効にし、エージェントが定期的にテレメトリ データを共有フォルダーにアップロードできるようにします。既定では、データのアップロードは無効です。 |
| Office テレメトリ データを保管するための UNC パスを指定する | Office テレメトリ エージェントがOffice テレメトリ データを送信する共有フォルダーの汎用名前付け規則 (UNC) パスを指定します。 |
| Office テレメトリ データにカスタム タグを指定する | Office テレメトリ エージェントから送信されたOffice テレメトリ データにカスタム タグを追加します。このポリシー設定を有効にすると、指定したカスタム タグがOffice のOffice テレメトリ ダッシュボードに表示され、収集したデータにタグ名でフィルターを適用できます。任意の文字列を指定して収集したデータの分類やフィルターの適用ができます。 (たとえば、部署名、ユーザーの役職など) |
| テレメトリ エージェント レポートから除外する Office ソリューション | 特定の Office ソリューションのテレメトリ データが Office の Office テレメトリ ダッシュボードに通知されないようにします。 |

**参考**

Office テレメトリ エージェントを有効にすると、これらのワークシートにデータが取り込まれます。

|  |  |
| --- | --- |
| ステップ2 ：Office テレメトリ エージェントの有効化 | |
| 1 | ユーザーのログオン スクリプトにコマンドを追加して、ユーザーがログオンしたときに.reg ファイルが自動的にインポートされるように設定します。グループ ポリシー設定を使用していない場合にレジストリの更新を配布するには、.reg ファイルを共有フォルダーに入れ、ユーザーにそのファイルを実行するように指示します。.reg ファイルをログオン スクリプトから呼び出すには、以下の構文を使用します。  %windir%\regedit.exe /s <PATH>\<NAME>.reg  以下の例に、Office テレメトリ エージェントを構成する.reg ファイルを示します。エージェント データのアップロード先共有フォルダーのUNC パスを指定し、<TAG> フィールドに入力し、必要に応じて設定を調整してから、ファイルを.reg ファイルとして保存します。組織内で収集したデータを簡単に識別できるように、定義している部署、場所、展開グループなどのラベルを使用することをお勧めします。  Windows Registry Editor Version 5.00  [HKEY\_CURRENT\_USER\Software\Policies\Microsoft\Office\15.0\osm]  "CommonFileShare"="\\\\<SERVERNAME>\\<SHARENAME>"  "Tag1"="<TAG1>"  "Tag2"="<TAG2>"  "Tag3"="<TAG3>"  "Tag4"="<TAG4>"  "AgentInitWait"=dword:00000001  "Enablelogging"=dword:00000001  "EnableUpload"=dword:00000001  "EnableFileObfuscation"=dword:00000000  "AgentRandomDelay"=dword:00000000 |

次の表では、各レジストリ キーについて説明します。すべてのキーは HKCU\Software\Policies\Microsoft\Office\15.0\OSM にあります。

| **設定** | **種類** | **値の名前** | **値の説明およびデータ** |
| --- | --- | --- | --- |
| Office テレメトリ データを保存するUNC パスを指定する | REG\_SZ | CommonFileShare | テレメトリ データの格納先共有フォルダーのUNC パスを指定します。  [\\server\share](file:///\\server\share) |
| Office テレメトリ データにカスタム タグを指定する | REG\_SZ | InventoryAgentCustomTags | Office テレメトリ エージェントから送信されたOffice テレメトリ データにカスタム タグを追加します。このポリシー設定を有効にすると、指定したカスタム タグがOffice のOffice テレメトリ ダッシュボードに表示され、収集したデータにタグ名でフィルターを適用できます。任意の文字列を指定して収集したデータの分類やフィルターの適用ができます。 (たとえば、部署名、ユーザーの役職など)  Tag1:<ラベル>  Tag2:<ラベル>  Tag3:<ラベル>  Tag4:<ラベル> |
| Office テレメトリ エージェントのデータのアップロードを有効にする | REG\_DWORD | EnableUpload | Office テレメトリ エージェントのデータのアップロード機能を有効にし、エージェントが定期的にテレメトリ データを CommonFileShare に指定された共有フォルダーにアップロードできるようにします。  0 = アップロードしない  1 = アップロードする  既定 = 0 (アップロードしない) |
| Office テレメトリ エージェントのプライバシー設定を有効に する | REG\_DWORD | EnableFileObfuscation | Office テレメトリ エージェントを構成し、テレメトリ データに通知された特定のファイル プロパティを難読化します。このポリシー設定を有効にすると、Office テレメトリ エージェントは、テレメトリ データを共有フォルダーにアップロードする前にファイル名、ファイル パス、および Office ドキュメントのタイトルを難読化します。  0 = 難読化しない  1 = 難読化する  既定 = 0 (難読化しない) |
| テレメトリ データ コレクションを有効にする | REG\_DWORD | EnableLogging | ランタイム テレメトリと静的スキャンを有効にし、エージェントがテレメトリ データを収集できるようにします。既定で有効です。  1 = ログとエージェントを有効にする  0 = ログとエージェントを無効にする  既定 = 1 (ログとエージェントを有効にする) |
| エージェントの待機間隔を構成する | REG\_DWORD | AgentInitWait | エージェントがクライアントをスキャンしてテレメトリ 共有フォルダーにデータをアップロードするまで待機する時間を調整します。既定値は 10 分 (600 秒) で、16 進数で 00000258 と表示されます。テストの場合は、00000000 と指定することで遅延を取り除くことができます。  00000258 |
| エージェントのランダム遅延を構成する | REG\_DWORD | AgentRandomDelay | 最大ランダム遅延を分単位で調整します。エージェントは、テレメトリ データのスキャンまたはアップロードを開始する前に、AgentInitWait の値に 0 ~ AgentRandomWaitInterval 分を加えた間隔でランダムに待機します。既定では 240分 (4 時間) です。テストの目的でランダム遅延をなくす場合は、00000000 を指定します。 |
| Office テレメトリ エージェント レポートから除外する Office アプリケーションを構成する | REG\_DWORD | PreventedApplications | 特定の Office アプリケーションのテレメトリ データが Office テレメトリ ダッシュボードに通知されないようにします。  DocumentFiles  TemplateFiles  COMAddins  AppAddins |
| Office テレメトリ エージェント レポートから除外する Office ソリューションを構成する | REG\_DWORD | PreventedSolutionTypes | 特定の Office ソリューションのテレメトリ データがOffice テレメトリ ダッシュボードに通知されないようにします。ただし、ソリューションの種類は通知されます。  WDSolution  XLSolution  PPTSolution  OLKSolution  AccessSolution  ProjectSolution  PublisherSolution  VisioSolution  OneNoteSolution |

### データ収集を手動で実行

ユーザーがOffice クライアントにログインすると、Office テレメトリ エージェントは、その他のログオン プロセスを完了できるように10 分間待機します。その後、複数のクライアント コンピューターからネットワークにデータが同時に送信されないように、最大 4 時間 (または AgentRandomDelay レジストリ値に設定された最大遅延時間) までのランダムな分数だけ待機します。この初期スキャンの後、テレメトリ エージェントは 8 時間ごとにスキャンしてデータを収集します。

データ収集が成功しているかを直ぐに確認したいときには、AgentInitWait やAgentRandomDelay の値を小さくし、スキャンを手動で実行します。Windows XP の場合は、エージェントをインストールしたら、ログオフしてから、クライアント コンピューターに再度ログオンします。Windows XP を除くWindows クライアントの場合は、次の手順に従います。

|  |  |
| --- | --- |
| データ収集を手動で実行 **※ Windows XP を除くWindows クライアントの場合** | |
| 1 | この手順からは、こちらのPC / サーバーが対象です  **D**　AD サーバー  **C**　Office 2013  クライアント  **B**　DB サーバー  **A**　Office 2010 以前の  クライアント  クライアント コンピューターのタスク スケジューラで、[タスク スケジューラ ライブラリ] を展開し、[Microsoft] を展開して、[Office] をクリックします。 |
| 2 | [OfficeTelemetryAgentLogOn] タスクを右クリックし、[実行する] をクリックします。 |

# Office テレメトリ ダッシュボードの利用方法

ここでは、Office テレメトリ ダッシュボード で表示される情報や簡単な利用手順を説明します。Office テレメトリ ダッシュボードが、各クライアント PCの情報・問題を一箇所に収集して、IT 管理者が利用するのに対し、Office テレメトリ ログは、Office が実行されている各クライアント PC から、自分自身の情報・問題を確認するために利用します。

また、テレメトリ ダッシュボード データベースを管理するのに役立つツールを紹介します。

* Office テレメトリ ダッシュボードの利用
* Office テレメトリ ログの利用
* テレメトリ ダッシュボード管理ツールの利用

## Office テレメトリ ダッシュボードの利用

### Office テレメトリ ダッシュボードのワークシート

次の図は、Office テレメトリ ダッシュボードで表示できる全ワークシートの関係図です。

概要

ドキュメントの詳細

ドキュメント

ドキュメントセッション

ソリューション

ソリューションの詳細

アドインの管理

ソリューション セッション

ソリューションの問題

エージェント

カスタム レポート

ドキュメントの問題

テレメトリ プロセッサ

展開

・・・　既定で表示

・・・　リンクをクリック

・・・　リンクをクリックすることにより、表示

ワークシート名

スタート

Telemetry Dashboard ガイド

ワークシート名

次の表では、Office テレメトリ ダッシュボードの各ワークシートに表示される情報や利用手順、利用例について説明します。

| **ワークシート名** | **説明** |
| --- | --- |
| 概要 | Office のドキュメントおよびソリューションの正常性や展開傾向を簡単に確認できます。また、詳細情報へのリンクも用意されています。 |
| ドキュメント | 新しい Office より前のOffice バージョンが実行されている監視対象のクライアントのローカル レジストリにある最近使用した (MRU) ファイルで検出されたOffice ドキュメントが表示されます。  このリストには、Office が実行されている監視対象のクライアントのロード イベントも表示されます。いずれかの値をクリックするとワークシートが開き、詳細を確認できます。たとえば、[ユーザー総数] 列で数値をクリックすると、MRU リストにあるファイルを所有しているユーザーが表示されます。 |
| ドキュメントの詳細  ※既定で非表示 | [ドキュメント] ワークシートの [ユーザー総数] 列で値のリンクをクリックすると表示されます。選択したドキュメントの詳細が表示されます。 |
| ドキュメントの問題  ※既定で非表示 | [ドキュメント] ワークシートの [重大] 列または [情報通知のみ] 列で問題のリンクをクリックすると表示されます。選択したドキュメントについて報告された問題が表示されます。重大の件数が多いほど、背景色のピンクが濃く表示されます。 |
| ドキュメント セッション  ※既定で非表示 | [ドキュメントの問題] ワークシートの [セッション] をクリックすると表示されます。[ドキュメントの問題] ワークシートで報告されたアプリケーション イベントに関する詳細が表示されます。 |
| ソリューション | 監視対象のPCで検出されたソリューション (COM アドインなど) に関する詳細が表示されます。[重大] 列では、新しい Office クライアント上でソリューションのために重大なエラーが発生した一意のユーザーの数を確認できます。重大なエラーとその影響を受けるユーザーの数を確認することで、クラッシュするアドインを使用しているユーザーが多い場合にはそのアドインを強制的にブロックするかどうかを指定できます。これを行うには、ワークシートの上部にある [アドイン管理モード] リンクをクリックします。 |
| アドインの管理  ※既定で非表示 | [ソリューション] ワークシートの [アドイン管理モード] リンクをクリックすると表示されます。新しい Office アプリケーションのアドインの利用状況に関する詳細が表示されます。グループ ポリシー オブジェクト スクリプトを生成して別個に適用することで、アドインをブロックしたり有効にしたりできます。  グループ ポリシー テンプレート .admx ファイル (Office テレメトリ ダッシュボードの [スタート] ワークシートから入手可能) を使用して、アドインの無効化または有効化をすることもできます。ポリシー設定は "ユーザーの構成\管理用テンプレート\Microsoft Office 2013\テレメトリ ダッシュボード\<アプリケーション名>\Miscellaneous" にあります。 |
| ソリューションの詳細  ※既定で非表示 | [ソリューション] ワークシートの [ユーザー総数] 列で値のリンクをクリックすると表示されます。選択したソリューションの詳細が表示されます。 |
| ソリューションの問題  ※既定で非表示 | [ソリューション] ワークシートの [重大] 列または [情報通知のみ] 列で問題のリンクをクリックすると表示されます。選択したソリューションの問題が表示されます。 |
| ソリューション セッション  ※既定で非表示 | [ソリューションの問題] ワークシートの [セッション] をクリックすると表示されます。[ソリューションの問題] ワークシートで報告されたアプリケーション イベントに関する詳細が表示されます。 |
| テレメトリ プロセッサ | Office テレメトリ プロセッサ が実行されているサーバー、監視対象のユーザー数およびコンピューター数、および最後の更新日時が表示されます。 |
| エージェント  ※既定で非表示 | [テレメトリ プロセッサ] ワークシートでコンピューター名のリンクをクリックすると表示されます。Office テレメトリ エージェントの監視対象のユーザー数およびコンピューター数と、エージェントに対して設定されているラベルが表示されます。 |
| 展開 | 検出されたOffice のバージョン、および各バージョンのアーキテクチャの種類や一意のインスタンスの数のようなその他の詳細が表示されます。 |
| カスタム レポート | ユーザー設定のPivotTable レポートを作成できます。ユーザー設定のPivotTable レポートを作成してシステムの詳細ビューに接続し、エンド ユーザーのシステム情報と、Windows およびInternet Explorer のバージョンを表示できます。    また、新しいブックを作成し、[データ] – [その他のデータ ソース] – [SQL Server] より、独自の PivotTable レポートを作成することもできます。Telemetry Dashboard が展開されるとSQL Server にシステムの詳細、利用者状況、問題の概要という3 つのビューが作成されます。それらをExcel から接続し、Pivot Table に表示させることができます。 |

|  |  |
| --- | --- |
| スタート | Office テレメトリ ダッシュボードを展開する手順が表示されます。 |
| Telemetry Dashboard ガイド | Office テレメトリ ダッシュボードの概念に関する簡単なチュートリアルが表示されます。 |

### Office テレメトリ ダッシュボードの利用例

次の推奨利用シナリオ毎にOffice テレメトリ ダッシュボードの利用例を紹介します。

|  |
| --- |
| 1. クラウドモデルでの事前検証 |
| 2. 移行後のモニタリング |

クラウドモデルで事前検証を行う際の、Office テレメトリ ダッシュボード 利用例を紹介します。

|  |  |
| --- | --- |
| 1. クラウドモデルでの事前検証 | |
| 1 | この手順からは、こちらのPC / サーバーが対象です  **D**　AD サーバー  **C**　Office 2013  クライアント  **B**　DB サーバー  **A**　Office 2010 以前の  クライアント  Office テレメトリ エージェントをOffice 2010 環境のPC に導入します。 |
| 2 | Office 2010 環境で、現行利用しているファイルを動かし、Office テレメトリ ダッシュボードに利用状況データを収集します。 |
| 3 | この手順からは、こちらのPC / サーバーが対象です  **D**　AD サーバー  **C**　Office 2013  クライアント  **B**　DB サーバー  **A**　Office 2010 以前の  クライアント  Office テレメトリ ダッシュボード [ドキュメント] ワークシートの [ユーザー総数] 列より、利用頻度の高いファイルを確認します。  ユーザーが多いほど、[ユーザー総数] 列の背景のオレンジ色は、濃くなります。 |
| 4 | IT 管理者は、手順3 で確認した利用頻度の高いファイルのデータ等を参考に分析し、ビジネス上優先度の高いファイルを見極めます。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 5 | **A**　Office 2010 以前の  クライアント  **B**　DB サーバー  **C**　Office 2013  クライアント  **D**　AD サーバー  この手順からは、こちらの PC / サーバーが対象です  優先度の高いファイルを利用しているユーザーから代表的な一部のユーザーを選び、クイック実行によるストリーム配信で、新しい Office をOffice 2010 環境のPC に導入します。 |
| 6 | Office テレメトリ エージェントをOffice 2010 環境のPC で有効にします。 |
| 7 | この手順からは、こちらの PC / サーバーが対象です  **D**　AD サーバー  **C**　Office 2013  クライアント  **B**　DB サーバー  **A**　Office 2010 以前の  クライアント  ユーザーは新しい Office で、通常通り優先度の高いファイルを利用します。問題が発生した場合は、旧 Office を利用します。 |
| 8 | この手順からは、こちらのPC / サーバーが対象です  **D**　AD サーバー  **C**　Office 2013  クライアント  **B**　DB サーバー  **A**　Office 2010 以前の  クライアント  Office テレメトリ ダッシュボードの [概要] ワークシートのドキュメントもしくはソリューションの [不安定] セルの数字を確認します。 |
| 9 | 手順8 の [不安定] セルの数字をクリックすると、不安定なドキュメントもしくはソリューションの詳細が表示されます。[重大] 列のリンクをクリックします。 |
| 10 | [ドキュメントの問題] ワークシートに、検出された問題の説明が表示されます。[詳細情報] 列の[リンク] をクリックします。 |



|  |  |
| --- | --- |
| 11 | KB 情報の一覧が表示されます。[リンク] をクリックすると、KB の詳細情報が表示されます。 |
| 12 | IT 管理者は、問題があるファイルの対応方針を検討します。 |

移行後のモニタリングを行う際の、Office テレメトリ ダッシュボード 利用例を紹介します。

|  |  |
| --- | --- |
| 2. 移行後のモニタリング | |
| 1 | 展開前の場合は、Office テレメトリ エージェントをOffice 2010 環境のPC に導入します。 |
| 2 | **A**　Office 2010 以前の  クライアント  **B**　DB サーバー  **C**　Office 2013  クライアント  **D**　AD サーバー  この手順からは、こちらの PC / サーバーが対象です  P.38 [ステップ2 ：Office テレメトリ エージェントの有効化] の.reg ファイルにおいて、”Tag1” ～ ”Tag4” に各部署名を設定し、Office テレメトリ エージェントを有効にします。  Windows Registry Editor Version 5.00  [HKEY\_CURRENT\_USER\Software\Policies\Microsoft\Office\15.0\osm]  "CommonFileShare"="\\\\<SERVERNAME>\\<SHARENAME>"  "Tag1"="○○事業部"  "Tag2"="××部"  "Tag3"="△△グループ"  "Tag4"="<TAG4>"  "AgentInitWait"=dword:00000001  "Enablelogging"=dword:00000001  "EnableUpload"=dword:00000001  "EnableFileObfuscation"=dword:00000000  "AgentRandomDelay"=dword:00000000 |
| 3 | **A**　Office 2010 以前の  クライアント  **B**　DB サーバー  **C**　新しい Office  クライアント  **D**　AD サーバー  この手順からは、こちらの PC / サーバーが対象です  [概要]、[ドキュメント]、[ソリューション]、[データ処理サービス]、[展開] ワークシートにおいて、ラベル 1 ～ 4 の設定値を変更し、[更新] をクリックします。 |
| 4 | 1 週間に1 度など定期的に、もしくは、IE のバージョンアップや新しいアプリケーションを導入した際に、Office テレメトリ ダッシュボードの [概要] ワークシートの [不安定] セルの数字を確認し、1 以上であれば、クリックします。 |
| 5 | 不安定なドキュメントもしくはソリューションの詳細が表示されます。[重大] 列のリンクをクリックします。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 6 | [ソリューションの問題] ワークシートに、検出された問題の説明が表示されます。 |
| 7 | 重大度の高いソリューションを発見した場合、[ソリューション] ワークシートの [アドイン管理モード] をクリックします。 |
| 8 | [アドイン管理] ワークシートが表示されます。[グループ ポリシーの設定] 列で、アドイン毎に設定したい値を選択します。 |

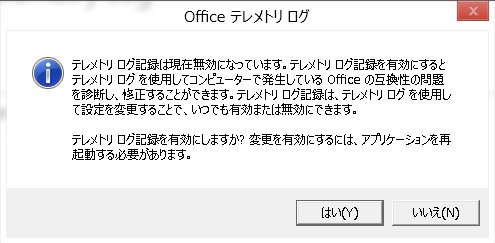
|  |  |
| --- | --- |
| 9 | [作成] をクリックし、GPO を作成するスクリプトを作成します。 |
| 10 | IT 管理者は、生成したスクリプトを Active Directory 上で実行し、アドインを制御します。 |

## Office テレメトリ ログの利用

Office テレメトリ ログは、Office が実行されている各クライアント PC で、ユーザー自身がイベント情報、エラーや問題を確認できます。

Office テレメトリ ログを使用するには、[Office 2013 テレメトリ ログ] を起動します。

初回起動時にダイアログが表示された場合、[はい] をクリックして、テレメトリ ログ記録を有効にします。





次の表は、Office テレメトリ ログに表示される情報の一覧です。

| **タイトル** | **イベントの情報** | **説明** |
| --- | --- | --- |
| 「アドインは正常に読み込まれました」 | アドインが正常に読み込まれました | [ファイル] 列に表示されているアドインが Office アプリケーションで正常に読み込まれました。互換性の問題は検出されませんでした。 |
| 「ドキュメントは正常に読み込まれました」 | ドキュメントが正常に開かれました | [ファイル] 列に表示されたファイルがOffice アプリケーションで問題なく開かれました。 |
| 「ファイルの読み込みに失敗しました」 | ファイルの読み込みに失敗しました | ファイルまたはアドインをアプリケーションに読み込めませんでした。潜在的な互換性の問題がある可能性があります。 |
| 「ドキュメントは正常に閉じられました」 | ファイルが正常に閉じられました | [ファイル] 列に表示されたファイルが正常に閉じられました。 |
| 「ファイルが自動的に復旧されました」 | ファイルが復旧されました | 予期せずに閉じられたファイルが以前の自動保存ポイントから復元されました。 |
| 「オブジェクト モデル 動作変更: ...」 | 動作変更 | アドインまたはマクロ有効文書のコードで、以前のバージョンのOffice とは異なる動作をするオブジェクト、メンバー、コレクション、列挙型、または定数が使用されています。 |
| 「オブジェクト モデル 削除: ...」 | オブジェクト モデル非表示 | アドインまたはマクロ有効文書のコードで、オブジェクト モデルから削除されたオブジェクト、メンバー、コレクション、列挙型、または定数が使用されています。 |
| 「非推奨オブジェクト モデル: ...」 | オブジェクト モデル非表示 | アドインまたはマクロ有効文書のコードで、オブジェクト モデルで非表示のオブジェクト、メンバー、コレクション、列挙型、または定数が使用されています。 |
| 「コントロール: ...」 | 各種 | Officeまたはオペレーティング システムでサポートされていない可能性のあるコントロールがファイルに含まれています。 |

Office テレメトリ ログでは、重大度のレベルと既知の問題が表示されます。オブジェクト モデルの一部が非表示になった問題はほとんどの場合、重大度のレベルが ”情報通知のみ” になっています。その一方で、他の既知の問題は、重大度やすぐに対処する必要性が増している場合があります。

Office テレメトリ ログに表示されている問題の重大度について、次の表で説明しています。

|  |  |
| --- | --- |
| **重大度** | **説明** |
| 重大 | 機能が著しく損なわれたり、アプリケーションがクラッシュする可能性があります。 |
| 警告 | データを損失したり、表示の忠実性が損なわれる可能性があります。タイトルが 「OM 削除」 で種類が 「動作変更」 の問題のほとんどは、重大度がこのレベルです。 |
| 情報 | アプリケーションの互換性にすぐには影響が出ない可能性もありますが、ユーザーは後で対処が必要になる場合があります。種類が 「非推奨オブジェクトモデル」 の問題の多くは、重要度がこのレベルです。 |

監視されるソリューションの種類に関する詳しい情報については、次の表を参照してください。

| **ソリューションの種類** | **アプリケーション** | **説明** |
| --- | --- | --- |
| アクティブ ドキュメント | Word 2013  PowerPoint 2013  Excel 2013 | アクティブ ドキュメントはこの表に含まれているその他のソリューションの種類以外のOffice の文書ファイルです。これには、以下が含まれます。   * Office バイナリ形式ファイル (.doc、.ppt、.pps、.xls) * Office OpenXML 形式ファイル (.docx、.pptx、.ppsx、.xlsx) * VBA コード (.docm、.dotm、.pptm、.potm、.xlsm、.xltm) が含まれているマクロ有効ファイル * ActiveX コントロールが含まれているファイル * 外部データ接続があるファイル |
| COM アドイン | Word 2013  PowerPoint 2013  Excel 2013  Outlook 2013 | COM アドインには、Visual Studio 2010 のアプリケーション レベルのアドインとして Microsoft Office 開発ツールが含まれます。 |
| Excel オートメーション アドイン | Excel 2013 | このソリューションの種類には、以前のバージョンの Excel でサポートされていたオートメーション アドイン (COM アドインに組み込まれている) が含まれています。オートメーション アドインの機能は、Excel ワークシートの数式から呼び出すことができます。 |
| Excel XLL アドイン | Excel 2013 | XLL アドイン (.xll) は Excel 特有のアドインであり、DLL (ダイナミック リンク ライブラリ) のビルドをサポートしているコンピューターでビルドされます。インストールや登録の必要はありません。XLL アドインには ユーザー定義のコマンドや機能を持った DLL も含まれています。 |
| Excel RTD XLS アドイン | Excel 2013 | XLS リアルタイム データ (RTD) アドインは、RealTimeData ワークシート関数を使用してオートメーション サーバーを呼び出し、リアルタイムでデータを取得する Excel ワークシートです。 |
| Word WLL アドイン | Word 2013 | WLL (.wll) アドインはWord 特有のアドインで、DLL のビルドをサポートするコンピューターを使用することによってビルドされます。 |
| アプリケーション アドイン | Word 2013  PowerPoint 2013  Excel 2013 | アプリケーション アドインは、VBA コードを使用するアプリケーション固有のファイルです。これには、マクロ有効テンプレート (.dotm) 、Excel アドイン (.xla、.xlam) 、PowerPoint アドイン (.ppa, .ppam) が含まれます。 |
| テンプレート | Word 2013  PowerPoint 2013  Excel 2013 | テンプレートには、Office ファイルに添付されている、文書 (.dot, .dotx)、ワークシート (.xlt, .xltx)、プレゼンテーション (.pot, .potx) テンプレートが含まれます。 |
| 外部実行可能ファイル (EXE) | Word 2013  PowerPoint 2013  Excel 2013  Outlook 2013 | 外部実行可能ファイルはOffice アプリケーション オブジェクト モデルに読み込まれるOffice アプリケーションの外部のアプリケーションです。 |

## テレメトリ ダッシュボード管理ツールの利用

テレメトリ ダッシュボード管理ツール ( Tdadm.exe ) は、収集・蓄積されたデータに対するメンテナンスや、データの管理をサポートします。

データの退避 ( 移動・コピー ) や削除、ダッシュボードに表示されることで不都合が生じるデータの難読化 ( 文字列をアスタリスクに置き換える ) など、テレメトリダッシュボードの運用時に役立つ機能を提供します。

このツールが持つ機能は、以下になります。

* 組み込みファイル名とプログラム識別子 ( ProgID ) のリストを管理する
* 使用されていないユーザー、ソリューション、コンピューターデータをクリーンアップする
* テレメトリ データを他のデータベースにコピーまたは移動する
* テレメトリ データを削除する
* テレメトリ データを難読化する
* テレメトリ データベースへのアクセス許可を与える
* データベース内のタグ ( ラベル ) 名を置換する
* テレメトリデータベースの設定値を変更する

( 組み込みファイルの対象設定、または複数ユーザー使用のファイルのみをレポート表示するしきい値変更など )

テレメトリ ダッシュボードの活用とあわせて、この管理ツールをご利用ください。

**参考**

テレメトリ ダッシュボード管理ツールのダウンロードは、URL ( <http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=36499> ) より行えます。

# まとめ

Office テレメトリ ダッシュボードを活用することにより、新しい Office の展開時、展開後の期間短縮や費用削減、リスクや負荷軽減が期待できます。また、Office テレメトリ ダッシュボードをクイック実行と組み合わせて利用することにより、更なる期間短縮や負荷軽減が可能になります。

本ドキュメントでは、Office テレメトリ ダッシュボードの概要や、移行とモニタリングに関する推奨利用シナリオ、Office テレメトリ ダッシュボードをご使用の際に考慮して頂きたい点について説明してきました。また、Office テレメトリ ダッシュボードの設定手順や利用手順についても説明しています。

Office最新環境へアップグレードする際などに本書をご活用いただき、Office テレメトリ ダッシュボードの新機能を、ビジネスにおいて十分にご活用ください。